

日中友好を訪ねる飛鳥山散策

2024.10.20

主催 北区日中友好協会

散策ポイントNo.1

「北とぴあ前 平和祈念像」

王子駅北口を降りてすぐのところにある北区の産業文化会館「北とぴあ」。
北とぴあの正面玄関入口横には長崎の平和公園にある平和祈念像のレプリカがあります。

制作者の北村西望氏は大5年(1916年)から昭和28年(1953年)まで北区に居住し、
北区の名誉区民でした。



天を指す右手は「原爆の脅威(長崎の過去)」を、水平にのばした左手は「平和(長崎の未来)」を示し、軽く閉じた瞼は戦争犠牲者の冥福を祈る様子を表しています。

散策ポイントNo.2

「王子神社」 ～ 徐福伝来図（若一王子縁起絵巻）

2022年(令和4年)に創建700年を迎えた東京十社のひとつ。
当地の領主豊島氏が社殿を再興し、紀州熊野三社より王子大神をお迎えして、改めて「若一王子宮」と奉斎し、熊野にならって景観を整えたといわれます。

江戸時代、徳川将軍家の祈禱所として厚遇され、三代将軍家光は社殿をあらたに造営し、神社縁起絵巻の制作を命じました。狩野尚信が作画を担当し、また縁起の詞書は朱子学者の林羅山が撰文を行っています。その中に「徐福伝来図」があります。

王子神社が熊野権現から勧請・奉斎されたという経緯から熊野地方に多い徐福伝説を神社縁起絵巻に盛り込んだものと考えられます。残念ながら、真筆は幕末の火災で焼失していますが、幸いなことに幕府絵所で制作された複数の摸本の存在が知られており、その一つが飛鳥山博物館に保管されています。

秦の始皇帝の命によりに若い男女三千人もの人々を従え、不老不死の仙薬を求めて東方にあるとされた蓬莱・方丈・瀛州(ほうらい・ほうじょう・えいしゅう)の三神山を目指した徐福の伝来伝説は日本全国に残っています。



王子神社の大鳥居（奥は社殿）



神社絵巻に描かれた徐福伝来図

散策ポイントNo.3

「飛鳥山公園内 平和の女神像」

この像は、1972年の日本と中国の国交正常化を記念し、人類の理想である平和と幸福を願って、北区民有志を中心とした「日中友好・世界平和祈念『平和の女神像』建立の会」と、北区、北区議会、北区自治会連合会、区内企業、関係団体等が力を合わせ、1974年に飛鳥山公園に建立したもので、今年建立50周年を迎えました。

作者は、長崎市「平和祈念像」の作者として有名な故北村西望氏です。

当初は、大噴水のあった中央広場に建立しましたが、1998年3月、公園の大規模な改修に伴い、現在の場所に移設いたしました。なお、台座の裏に「女神像建立の辞」があります。

また、今年8月7日には北とぴあつつじホールにおいて建立50周年の記念式典が開催され、中国大使館からも一等書記官が来賓として出席し、祝辞を述べられました。



散策ポイントNo.4

「旧渋沢庭園」

今年、新一万円札の顔となった渋沢栄一(昭和6年没)は晩年の三十年間を飛鳥山の邸宅で暮らしました。初めは別荘として、後に本邸として過ごした「暖依村荘(あいそんそう)」とよばれる邸宅です。往時は 8470 坪(約 28,000 m²)の敷地に日本館と西洋館からなる本館をはじめ色々な建物が存在しましたが、その多くは昭和 20 年の空襲で消失しました。現在残っている建物は「青淵文庫」と「晩香廬」のふたつです。

渋沢栄一は孫文とも交流を深めたほか、多くの中国人留学生を支援するため、「志那留学生同情会」を設立し、340名を超える学生に毎月、奨学金を贈っています。その後、「日華学会」を設立し、後に会長として日中関係の将来を担う留学生への投資も惜しみませんでした。また、後に中華民国国民政府主席となる蒋介石も渋沢邸にゲストとして招かれています。現在、建物の建っている「旧渋沢庭園」は飛鳥山公園の一部として一般に開放されています。



青淵文庫前で握手する渋沢栄一と蒋介石
(渋沢史料館所蔵)



現在の清水建設が渋沢栄一の
喜寿祝いに贈った晩香廬